

全体総括

○計画期間；平成20年11月～平成26年10月

1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

基本計画に基づき、「街なか観光」・「イベント」による賑わいの創出・人の温もりを中心部に誘導する「街なか居住」・特色ある商業の振興の3つの基本方針を掲げ、事業を推進してきたことにより、歩行者通行量の減少に歯止めがかかり、街なか観光客の入込数が増加するなどの効果が現れており、計画期間中に民間マンションの建設が行われ、現在も複数の民間事業者による新たな商業施設の計画が生まれるなどの活性化への好循環が続いている。

特に、計画の核事業である「三つの新名所づくり」により、山形の魅力の発信と地域ブランド力の向上を図るため、複数の蔵を利用して整備した「山形まるごと館 紅の蔵」が平成21年12月6日に、また、県下初の鉄筋コンクリート造の校舎で、国の登録文化財の第一小学校旧校舎を整備した「山形まなび館」及び、約400年前に整備された農業用水のための堰と蔵を活用した商業施設を整備した「水の町屋 七日町御殿堰」が平成22年4月28日にオープンしており、街なかに新たな観光地としての魅力が創出され、市外・県外からの来街者が増加するとともに、街なか回遊の起点となっている。

このほか、街の賑わいを推進する組織として、「街なか賑わい推進委員会」を地域の様々な団体の参画を経て平成22年に発足したことにより、情報発信やイベント等を官民が一体となって行ったことで、中心市街地の魅力の周知と、新たなイベントによる賑わいが創出され、街なか滞在者が増えたと感じられるようになってきている。

一方で、隣接する仙台市やインターネット販売への買物客の流出も増加していることや、空き店舗が増加しているため、観光客や市民のニーズに合わせた商業の魅力向上への取組が課題となっている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

基本計画に掲げた81事業中76事業が完了または着手済で、5事業が未実施となっている。事業進

捗率は93.8%であり、計画した事業は概ね予定通りに進捗・完了したといえる。

各取組により、街なか観光客入込数は目標値を大幅に上回り、減少が続いていた歩行者通行量は基準値にも達していないものの減少に歯止めがかかり、緩やかに増加傾向にある。街なか居住者は目標を上回ることは出来なかったものの、市内でも高齢化率の高い中心市街地において、現状維持に近い数値で推移することが出来たことから、基本計画に基づいて官民が連携して中心市街地の活性化に取り組んだことの一定の成果であると考ええる。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(山形市としての見解)

基本方針の「街なか観光」・「イベント」による賑わいの創出を達成するための戦略として、「三つの新名所づくり」を掲げ、七日町拠点の「水の町屋 七日町御殿堰」・「山形まなび館拠点」・「山形まるごと館 紅の蔵」の整備を行った。

それぞれの拠点において、山形の歴史・文化を活かしながら情報の発信や特色ある商業の振興を図ったことにより、中心市街地に新たな観光の魅力が創出されるとともに、街なか回遊の起点となり、街なか観光客の入込数の増加や、歩行者通行量の減少傾向の歯止めに貢献している。

また、街なか賑わい推進委員会の発足にて、様々な団体が共同・連携して総合的に協力し合う推進体制を整備されたことにより、これまで個々の団体等で実施していた取組を「街なか賑わいフェスティバル」や「城下町やまがた雛祭り」などのより大きな効果をあげるイベントとして実施したことや、観光情報発信、観光ルートの作成などを実施してきたことに合わせて、文化観光拠点施設の入場料無料化、観光レンタサイクルなどのソフト事業にも取り組んだことにより、中心市街地への来街者の増加や回遊環境の向上が図られた。

こうした取組みにより、中心市街地の魅力が向上したため、計画期間の約6年間で活性化が図られた要因と考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

山形市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体と協議・調整しながら、中心市街地活性化の推進を行った結果、計画に位置付けられた事業は概ね実施されたと考えます。

中心市街地内において、蔵や堰などの歴史的・文化的な資源と商業複合機能を図るべく、「やまがたまるごと館 紅の蔵」「七日町御殿堰」「山形まなび館」の3拠点整備を行い、中心市街地のにぎわい創出に貢献し、活性化に効果があったものと評価できます。

一方、計画に掲げていた3つの数値目標については、「街なか観光客入込数」は基準値160%を達成したが、消費者ニーズの多様化、少子高齢化や山形市郊外・近隣市の商業集積の進展、仙台市との都市間競争の激化等から「歩行者通行量」「中心市街地の居住人口」については、基準値を下回り、今後の活性化推進に向けた課題となっている。

今後は、街なかの回遊環境創出を図り、商業の振興と滞留人口・交流人口の増加を図るべく、市民等各層からの十分な理解や参加のもと、引き続き官民一体となって中心市街地の活性化に取り組む所存です。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

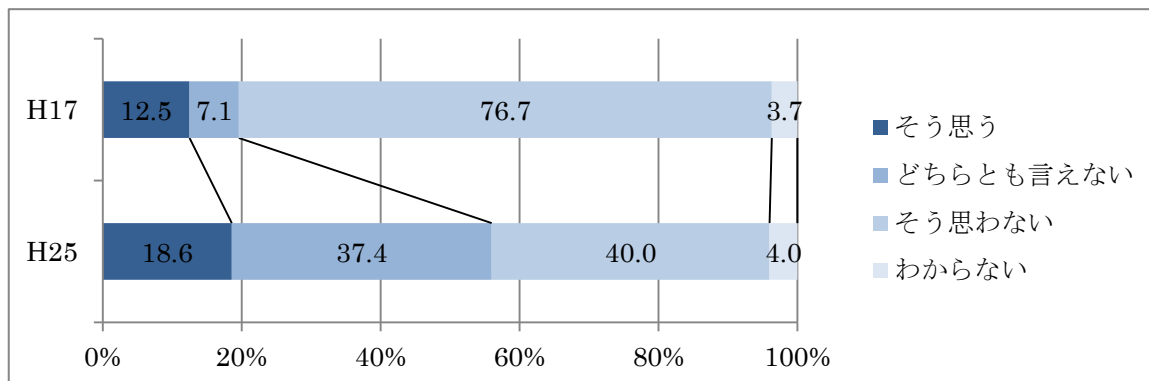
〈調査概要〉

- 山形市中心市街地活性化基本計画策定調査業務におけるアンケート調査結果より
 調査期間:平成 25 年 8 月 23 日、24 日
 調査対象:高校生以上の中心市街地来街者
 調査方法:調査員によるヒアリング
 回収数:462

〈参考〉〈前回調査の概要〉

- 山形市第 7 次総合計画のための市民アンケート調査
 調査期間:平成 17 年 9 月 1 日発送、9 月 16 日投函締め切り
 調査対象:18 歳以上の市内居住者
 調査方法:郵送配布・郵送回収
 回収数:2,184
- 市町村の中心市街地活性化の取組に対する診断・助言事業
 調査期間:平成 18 年 9 月 15 日、16 日
 調査対象:高校生以上の中心市街地来街者
 調査方法:調査員によるヒアリング
 回収数:416

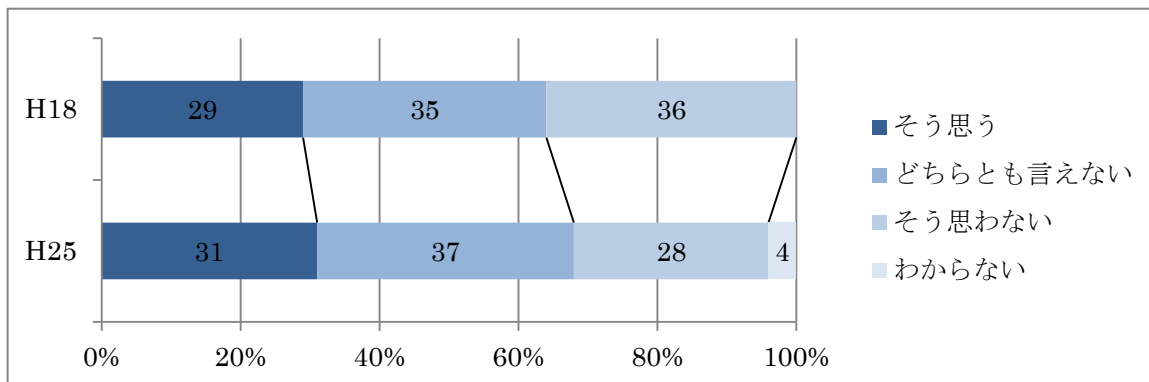
Q. 中心市街地に「賑わいがある」と感じているか



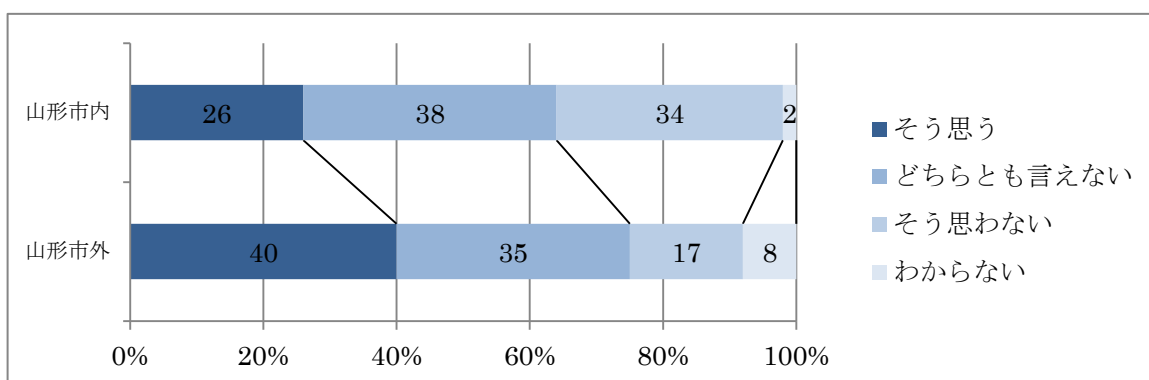
中心市街地に「賑わいがある」とのアンケートを実施してところ、平成 17 年に「そう思う」と感じている方

は 12.5%であったが、平成 25 年には 18.6%と 6.1%増加しているとともに、「そう思わない」と感じている方を比較すると 36.7%減少している。計画期間での取り組みが一定の効果をあげているものの、継続して活性化を図る必要性も伺える。

Q. 中心市街地に飲食店等の楽しめるものが充実しているか



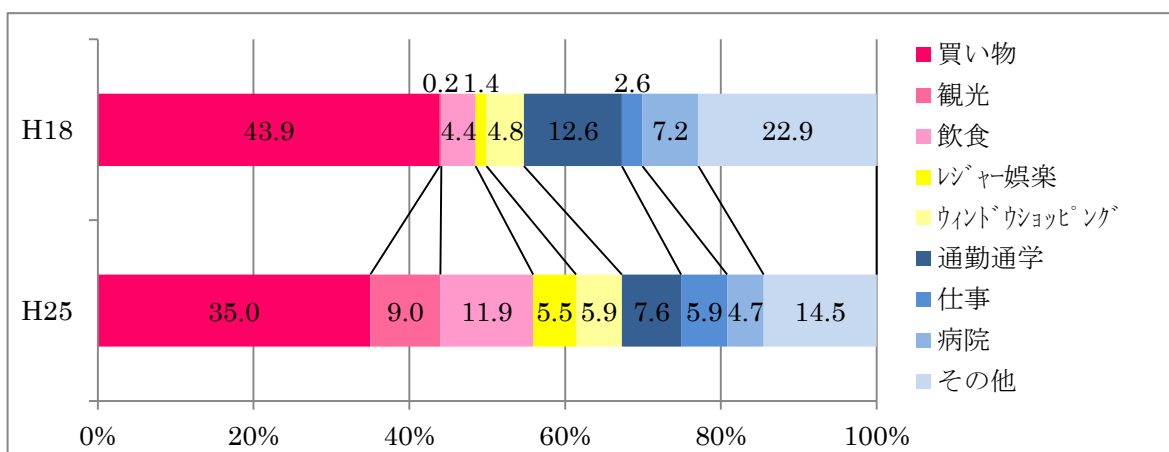
H25 山形市内・市外居住者別



中心市街地に飲食等の楽しめるものが充実しているかの質問に「そう思う」の回答は平成 18 年と比較すると 2%増加している。また「そう思わない」との回答は 8%減少している。

山形市内・市外居住者別の回答結果を見ると、市内居住者の「そう思う」の回答が 26%にとどまっており、平成 18 年と比較すると増減が無いため取り組みへの効果が見えないものの、山形市外の方の「そう思う」の回答が 40%と市外の方より 14%も高く、平成 18 年と比較しても 5%増加したことから、市外・県外の方から一定の評価をいただいております、観光の魅力向上が図られたと捉えることができます。

Q. 中心市街地への来街目的



中心市街地への来街目的を見ると、消費行動がともなう目的(買い物・観光・飲食・レジャー・エンターテインメント・ウインドウショッピングの合計)の平成18年の54.7%と平成25年の67.3%を比較すると12.6%の増加となっている。買い物だけを比較すると8.9%の減少となっているが、観光が8.8%増加、飲食が7.5%増加するなど、特色ある商業の振興を図った結果、来街者の多種多様なニーズへの対応が図られたと捉えることができる。

6. 今後の取組

前計画に掲載された事業については、概ね順調に進捗しており、街なか観光客入込数の大幅な増加などの一定の効果が得られた。

一方で、歩行者通行量が減少傾向に歯止めがかかり増加傾向にあるものの、基準値を下回り、来街者が面的に回遊していないなどの課題も明らかになっている。

産業の振興と中心市街地の活性化は本市の重点政策であり、現在、複数の民間事業者による新たな商業施設の計画が生まれるなどの活性化への好循環が続いているため、前計画における効果のさらなる伸長と、明らかになった課題への対応のため、新計画を策定し認定を受けたところである。

今後は、「歴史や文化を活かした、山形の魅力あふれるまちづくり」を基本テーマに、前計画で整備された3つの拠点を充実させることはもとより、新たな拠点の整備を行い、中心市街地全体へその効果を波及させるため、回遊環境の充実と中心市街地全体の商業の魅力の向上を、地域の様々な団体と一体となって行うことにより、中心市街地の活性化を図っていく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
賑わい拠点の創出	歩行者通行量 (休日)	29,682 (H19)	34,000 (H26)	27,466	(H26.11)	C
街なか居住の推進	中心市街地 居住人口	8,684 (H19)	9,100 (H26)	8,624	(H25.1)	c
街なか観光交流人口 の増加	街なか観光客の 入込数	249,869 (H19)	400,000 (H26)	643,181	(H25.3)	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

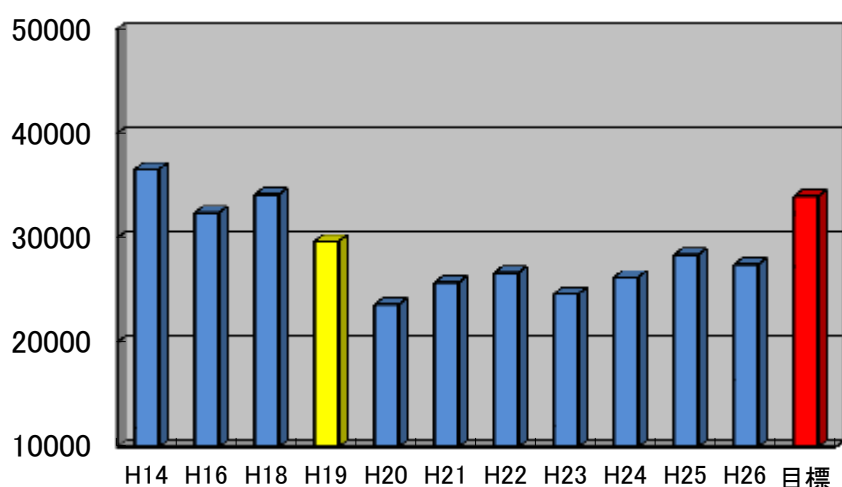
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「賑わい拠点の創出」

「歩行者通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 P72～P81 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H19	29,682 (基準年値)
H20	23,636
H21	25,740
H22	26,672
H23	24,650
H24	26,257
H25	28,398
H26	27,466
H26	34,000 (目標値)

※調査方法：10～11月の休日に12地点にて9時～19時計測

※調査月：10～11月

※調査主体：山形市・山形商工会議所

※調査対象：歩行者

【推移状況】

計画開始直後のH20年度歩行者通行量がH19年度の基準値を大きく下回る厳しいスタートとなった。減少の要因としては、中心市街地から約3km北西の嶋地区で区画整理事業が進められ、平成19年より大規模小売店が相次ぎ面的に立地したことや、平成20年に中心市街地にあった映画館やボーリング場などの娯楽施設が閉館したことが想定される。

平成21年度に「山形まるごと館 紅の蔵」、平成22年に「山形まなび館」「水の町屋 七日町御殿堰」の三つの新名所の整備が完了したことや、新名所において山形の魅力や回遊ルートを紹介を実施したことにより減少傾向に歯止めがかかり、緩やかな増加傾向となった。平成23年3月11日に起きた東日本大震災の影響と、計測日の悪天候が重なり、平成23年度は数値を落としたものの、その後、回復・増加し、全体として緩やかな増加傾向が続いている。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 御殿堰整備事業（山形市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成21年度
事業開始・完了時期	平成21年度【済】
事業概要	七日町二丁目地内の老朽化した石積み水路を歴史的景観に配慮しながら親水空間としての整備を行う事業
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 【目標値】34,000人(H26) 【最新値】27,466人(H26)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	農業用水堰と市道について整備を行い、親水空間の創出及び回遊環境の向上が図られ、歩行者通行量の回復に寄与していると想定されるが、七日町第5ブロック南地区市街地再開発事業の未実施により、相乗効果が得られず目標達成には至らなかった。

計画終了後の状況（事業効果）	当該事業により回遊性が高まったことで、あわせて実施された七日町御殿堰開発事業のテナントには、多くの利用者が訪れている。
御殿堰整備事業の今後について	中心市街地の歴史的観光資源である御殿堰を親水空間として延長整備するべく検討する。

②. 七日町御殿堰開発事業（七日町御殿堰開発株）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 平成 21 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度【済】
事業概要	御殿堰整備事業で整備された親水空間の隣接地に、蔵と堰を活用した商業施設を整備する事業
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 【目標値】 34,000 人(H26) 【最新値】 27,466 人(H26)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	水の町屋 七日町御殿堰として平成 22 年 4 月オープン、3 つの新名所づくりの 1 つで、七日町拠点整備の核となる事業であり、整備後は多くの利用者があつたものの、七日町第 5 ブロック南地区市街地再開発事業の未実施により十分な効果を得るまでには至らなかった。 七日町御殿堰入込数 H22 259,382 人 H23 95,609 人 H24 91,954 人 H25 115,500 人
計画終了後の状況（事業効果）	当該事業で整備されたテナントには、多くの利用者が訪れており、街なか回遊の起点となっている。
七日町御殿堰開発事業の今後について	御殿堰の延長整備を検討することにあわせ、隣接する商業施設の整備について検討していく。

③. 七日町第 5 ブロック南地区市街地再開発事業（山形中央開発株）ほか）

支援措置名及び支援期間	市街地再開発事業 平成 22 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 25 年度【未】
事業概要	店舗を併設しマンションを整備する事業 地上 4 階建(店舗、クリニック棟)地上 14 階建(マンション 65 戸)
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 【目標値】 34,000 人(H26) 【最新値】 27,466 人(H26)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	事業推進に向け、民間の床需要動向調査等を実施し概略事業スキームの検討を行ったが、景気の低迷により、商業施設・マンションでの事業実施が困難との判断により事業化には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	未実施のため事業効果なし
七日町第 5 ブロック南地区市街地再開発事業の今後について	現在のビル所有者が変更となったため、新たな所有者が活用について検討中。

④. 七日町第6ブロック地区優良建築物等整備事業（株住友不動産）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) 平成21年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成21年度～平成24年度【済】
事業概要	店舗を併設した分譲マンションを整備する事業 RC造、地下1階、地上20階建 1階:店舗2～20階:分譲マンション130戸
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 【目標値】34,000人(H26) 【最新値】27,466人(H26)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	平成24年12月完成、130戸の共同住宅が供給された。ほぼ完売しており、歩行者通行量の回復へ寄与しているものの、入居が完了していないことや、世帯員数についても想定を下回っているため、十分な効果を得るまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	併設した店舗により商業の魅力が向上し、居住人口が増加したことにより歩行者通行量の回復へ寄与している。
七日町第6ブロック地区優良建築物等整備事業の今後について	実施済み

⑤. 「山形まるごと館紅の蔵」運営事業（山形市・山形市中心市街地整備推進機構）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成21年度～【済】
事業概要	山形の伝統工芸品や農産物、飲食をまとめて体感できる「山形まるごと館」を設置し、そこを拠点に「山形ブランド」の確立を図る事業
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 当該事業による効果 【目標値】34,000人(H26) 【目標値】831人(H26) 【最新値】27,466人(H26) 【最新値】1,341人(H25)
達成状況	達成した
達成した(出来なかった)理由	3つの新名所の1つとして平成21年12月6日に山形まるごと館 紅の蔵、平成22年7月29日に産直部門がオープンしたことにより、県内外から多くの来街者が訪れている。 紅の蔵入込数 H21 119,149人 H22 333,833人 H23 344,034人 H24 388,166人 H25 408,992人
計画終了後の状況(事業効果)	当該事業により、県内外から多くの来街者が訪れ、街なか回遊の起点となっている。
「山形まるごと館紅の蔵」運営事業の今後について	拠点を充実と、ほか拠点と連携を図りながら継続して事業を実施していく。

⑥. 山形まなび館運営事業（山形市・山形市中心市街地整備推進機構）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 21 年度～【済】
事業概要	第一小学校の旧校舎を活用した既存公共施設の有効活用を図る事業
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 当該事業による効果 【目標値】 34,000 人(H26) 【目標値】 163 人(H26) 【最新値】 27,466 人(H26) 【最新値】 324 人(H25)
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	3つの新名所の1つとして平成22年4月オープン、山形市の観光案内とともに、情報発信、イベントを実施したことにより、多くの利用者が訪れている。 山形まなび館入込数 H22 61,192 人 H23 49,382 人 H24 61,265 H25 101,193 人
計画終了後の状況（事業効果）	当該事業により、県内外から多くの来街者が訪れ、街なか回遊の起点となっている。
山形まなび館運営事業の今後について	拠点を充実と、ほか拠点と連携を図りながら継続して事業を実施していく。

3. 今後について

計画期間において新たな拠点の整備を行ったことにより、来街者が増加し、歩行者通行量の減少に歯止めがかかり、一定の効果が現れたものの、七日町第5ブロック南地区市街地再開発事業の未実施等により、目標達成に至らなかった。

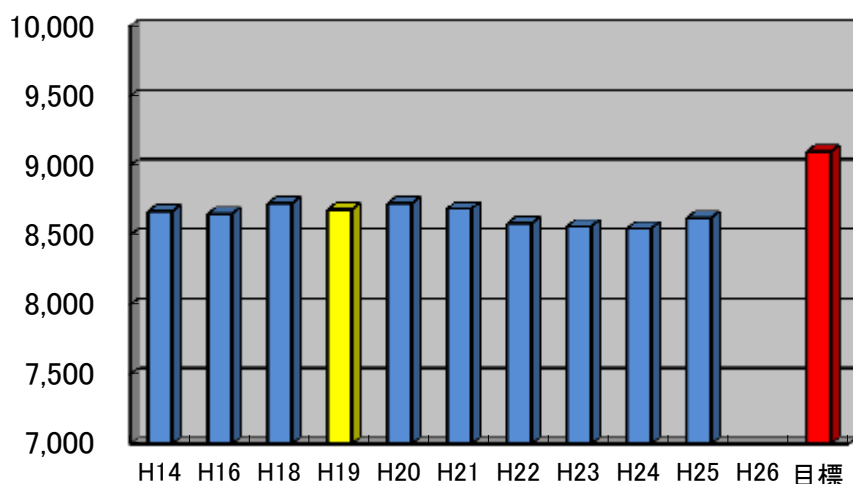
今後は、旅籠町文化交流館をはじめとする新たな拠点の創出にて更なる来街者の増加と、街なか賑わい推進委委員会において、現存する魅力の掘り起こしや回遊ルートの提唱を行うとともに、観光レンタサイクルの実施にて回遊環境を向上させることにより、歩行者・自転車通行量の増加を図り、賑わいを創出していく。

個別目標

目標「街なか居住の推進」

「中心市街地居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P81～P83 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H19	8,684 (基準年値)
H20	8,728
H21	8,690
H22	8,584
H23	8,563
H24	8,548
H25	8,624
H26	
H26	9,100 (目標値)

※調査方法：1月1日現在の住民基本台帳を基にした人口資料

※調査月：1月

※調査主体：山形市

※調査対象：中心市街地居住市民

【推移状況】

「第6ブロック優良建築物等整備事業」は、平成24年12月完成(130戸)した。エリア内には、計画に位置づけのない民間のマンション建設事業(サーパス旅籠町)や高齢者向け共同住宅の建設が実施され、高齢化率の高い中心市街地において居住人口は横ばいの傾向での推移となった。しかしながら、グローバルな社会情勢の悪化にて「七日町第5ブロック南地区市街地再開発事業」が未実施であることや、東日本大震災の影響など、中高層住宅の建設が減少したことにより居住人口増加へは至らなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

① 七日町第5ブロック南地区市街地再開発事業(山形中央開発㈱ほか)

支援措置名及び支援期間	市街地再開発事業 平成22年度～平成25年度
事業開始・完了時期	平成22年度～平成25年度【未】
事業概要	店舗を併設しマンションを整備する事業 地上4階建(店舗、クリニック棟)地上14階建(マンション65戸)
目標値・最新値	中心市街地居住人口 当該事業による効果 【目標値】9,100人(H26) 【目標値】152人(H26) 【最新値】8,624人(H25) 【最新値】0人(H25)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	事業推進に向け、民間の床需要動向調査等を実施し概略事業スキームの検討を行ったが、景気の低迷により、商業施設・マンションでの事業実施が困難との判断により事業化には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	未実施のため事業効果なし
七日町第5ブロック南地区市街地再開発事業の今後について	現在のビル所有者が変更となったため、新たな所有者が活用について検討中。

②. 七日町第6ブロック地区優良建築物等整備事業（株住友不動産）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) 平成21年度～平成24年度						
事業開始・完了 時期	平成21年度～平成24年度【済】						
事業概要	店舗を併設した分譲マンションを整備する事業 RC造、地下1階、地上20階建 1階:店舗 2～20階:分譲マンション 130戸						
目標値・最新値	<table border="0"> <tr> <td>中心市街地居住人口</td> <td>当該事業による効果</td> </tr> <tr> <td>【目標値】 9,100人(H26)</td> <td>【目標値】 232人(H26)</td> </tr> <tr> <td>【最新値】 8,624人(H25)</td> <td>【最新値】 167人(H26)</td> </tr> </table>	中心市街地居住人口	当該事業による効果	【目標値】 9,100人(H26)	【目標値】 232人(H26)	【最新値】 8,624人(H25)	【最新値】 167人(H26)
中心市街地居住人口	当該事業による効果						
【目標値】 9,100人(H26)	【目標値】 232人(H26)						
【最新値】 8,624人(H25)	【最新値】 167人(H26)						
達成状況	達成できなかった						
達成した（出来 なかった）理由	平成24年12月完成、130戸の共同住宅が供給された。ほぼ完売しているものの、入居が完了していないことや、世帯員数についても想定を下回っているため、十分な効果を得るまでには至らなかった。						
計画終了後の状 況（事業効果）	完成後、当該地区の居住人口が増加した。						
七日町第6ブロ ック地区優良建 築物等整備事業 の今後について	実施済み						

3. 今後について

中心市街地に人の温もりや活気を創出するためには居住人口を増加させることが効果的であるが、今後の人口減少社会を見据え、居住ニーズを増加させることが必要である。

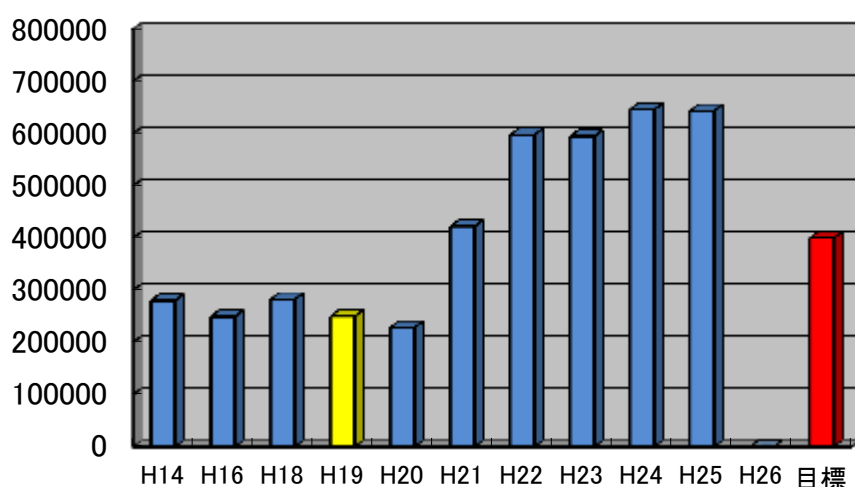
今後は、中心市街地内や周辺エリアへの居住者の多様な生活スタイルを支援する商業施設の創出や、利便性の向上を図り、賑わいを創出していく。

個別目標

目標「街なか観光交流人口の増加」

「街なか観光客の入込数」※目標設定の考え方基本計画 P83～P86 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H19	249,869 (基準年値)
H20	228,375
H21	422,299
H22	597,330
H23	594,659
H24	645,917
H25	643,181
H26	
H26	400,000 (目標値)

※調査方法： 文翔館，最上義光歴史館，山形美術館，山形まるごと館 紅の蔵の年間来館者数
 ※調査月： 4月
 ※調査主体： 山形市
 ※調査対象： 文翔館，最上義光歴史館，山形美術館，山形まるごと館 紅の蔵

【推移状況】

計画が開始された平成 20 年度(228,375 人)に数値を落としたが、平成 21 年度の大河ドラマ「天地人」において山形城 11 代城主 最上義光公が取り上げられたことや、山形まるごと館 紅の蔵のオープン・活性化事業の実施と合わせ、平成 21 年度(422,299 人)に目標値を達成した。

大河ドラマの影響は落ち着きつつあるものの、計画エリア内にある文化施設の入場料無料化や、「山形まるごと館 紅の蔵」に新たに産直部門を追加するなどの活性化事業を行ったことにより、平成 25 年度(643,181 人)においても大きく目標値を上回っている。今後も、山形の情報発信やイベントなどのソフト面の強化を行い、目標達成のみならず、より一層の入込数増加を図っていく。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 街なか観光の推進組織の整備と推進戦略の展開（山形市、山形県、その他の関係機関）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 21 年度～【済】
事業概要	統一性が無くインパクトの弱かった「街なか観光」について、推進体制を整備し、推進戦略を展開することにより、仙台などからの観光客の誘致を図る事業
目標値・最新値	街なか観光客の入込数 【目標値】 400,000 人(H26) 【最新値】 643,181 人(H25)
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	平成 22 年 9 月 1 日より、街の賑わいを推進する組織として「街なか賑わい推進委員会」を設置したことにより、イベントや中心市街地のPRが効果的に実施されたため来街者が増加し、各拠点施設の利用者が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	当該事業により、これまで個別に行なわれていた様々な団体のイベントを集結して、より大きな集客と回遊性を創出するイベント「街なか賑わいフェス

	ティバル」や、雛をテーマとして文化観光施設と中心市街地の商店街での連携で行う「城下町山形雛めぐり」を実施しており、街なか交流人口が増加している。
街なか観光の推進組織の整備と推進戦略の展開の今後について	中心市街地の歴史的観光資源の掘り起こしや、新しい観光ルートの作成、イベントの充実などを継続して行っていく。

②. 文化観光施設連携事業（各文化観光交流施設）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 21 年度～【済】
事業概要	共通パンフレットの作成・企画展の共同実施
目標値・最新値	街なか観光客の入込数 【目標値】 400,000 人(H26) 【最新値】 643,181 人(H25)
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	平成 21 年度に山形街なか文化探訪ガイドを作成し、平成 22 年度より、城下町やまがた雛めぐりを継続して開催したことにより、文化観光交流施設や各拠点施設の利用者が増加した。 雛めぐり参加者 H22 9,780 人 H23 10,545 人 H24 8,544 人 H25 13,044 人
計画終了後の状況（事業効果）	城下町やまがた雛めぐり参加店舗の増加により、文化観光交流施設や各拠点施設に留まらず、街なか交流人口の増加が図られている。
文化観光施設連携事業の今後について	継続して文化観光交流施設の連携を図る事業の実施を行うとともに、施設を回遊する環境向上に努める。

③. 「山形まるごと館紅の蔵」運営事業（山形市・山形市中心市街地整備推進機構）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 21 年度～【済】
事業概要	山形の伝統工芸品や農産物、飲食をまとめて体感できる「山形まるごと館」を設置し、そこを拠点に「山形ブランド」の確立を図る事業
目標値・最新値	街なか観光客の入込数 当該事業による効果 【目標値】 400,000 人(H26) 【目標値】 126,000 人(H26) 【最新値】 643,181 人(H25) 【最新値】 408,116 人(H25)
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	3つの新名所の1つとして平成 21 年 12 月 6 日に山形まるごと館 紅の蔵、平成 22 年 7 月 29 日に産直部門がオープンしたことにより、県内外から多くの来街者が訪れている。 紅の蔵入込数 H21 119,149 人 H22 333,833 人 H23 344,034 人 H24 388,166 人 H25 408,116 人
計画終了後の状況（事業効果）	当該事業により、県内外から多くの来街者が訪れ、街なか交流人口が増加している。

「山形まるごと
館紅の蔵」運営
事業の今後につ
いて

拠点を充実と、ほか拠点との連携を図りながら継続して事業を実施してい
く。

3.今後について

計画期間において新たな拠点の整備や、拠点の充実、文化観光交流施設の入場料無料化の効果によ
り、観光客の入込数は目標を大きく上回った。しかしながら、歩行者通行量の増加への波及効果が薄く、十
分な活性化とはなっていない。

今後は、既存の施設を充実させるとともに、旅籠町文化交流館をはじめとする新たな拠点の創出にて更
なる来街者の増加と、拠点の連携により回遊を促し、賑わいを創出していく。